

4. 1 機械工学科

4. 1. 1 アンケートと分析の概要

機械工学科では平成3年、5年、8年および11年の学部卒業生308名および大学院工学研究科前期課程修了生114名の合計422名に対してアンケートの依頼をした。

主な問いかけは、1. 回答者自身の勤務会社の業種と仕事の分野、2. 社会で必要な能力、3. 大学でのそれらの能力の達成度、4. 工学部教育についての自由記述を全員に問いかけ、さらに、大学院修了者に対してはそれに加え、5. 大学院教育について(1) 修士課程をどのような学習機会として捉えるか、そしてその達成度は、(2) 学部卒業生と比較して学力、能力が優れた教育になっているか、また(3) 工学部・大学院一貫教育のありかた、学際領域、国際性などについての意見を求めた。

今回のアンケート依頼に対して、回答者は57名であり、回収率は13.5%であった。このようなアンケートの回収率は、卒業生達がいかに自分の学んだ大学に愛着を持ち、卒業大学の発展を見つめているかという指標の1つでもあると考え、回収率自体も評価結果であるかも知れない。そのようなわけで、今回の結果だけで機械工学科の教育を判断するには早計と考えられるが、一応の傾向は出ていると思われるので分析を試みた。

まず、回答者の方々の会社の業種は下記のとおりであり、機械関連から電機(電気)、金属、化学、建設、情報など広い分野にまたがっている。機械技術者があらゆる分野で要求されている証であると言えよう。

(2) 会社の業種

1. 機械 18, 2. 精密機械 6, 3. 輸送機械 3, 4. 電機(電気) 8,
5. 金属 2, 6. 化学 3, 7. 建設 6, 8. 情報 2, 9. その他 8, 無回答 1

次に仕事の分野は下記のとおりであり、回答者のうち34名(58%)が研究・開発、設計の分野に所属している。

(3) 仕事の分野

1. 研究・開発 19, 2. 設計 18, 3. 生産管理 6, 4. 生産現場 6,
5. 管理運営 2, 6. 営業 2, 7. その他(品質管理, プラント保守点検・運転, 保全, 生産技術, 生産技術研修中, 放送技術, 教育機関)

アンケートの分析の概要に移るが、まず、徳大の卒業生が他大学の卒業生の比較してどのような能力に優れあるいは劣っているかということは常に注目しておかなければならない。その結果、仲間の意見を聞きながらうまく仕事を切り抜けられる能力はありそうであり、また、与えられた仕事を途中で放り出すことはないだろうが、自分の意見を述べることに積極的に行動すること、文章記述能力、表現力、創造する力など、能動的な能力は劣っている。与えられた課題に対する理解はできるが、反面自分から新しく考えられないということにも通じるだろう。